

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予報第12号(3月)について

このことについて、病虫害発生予報第12号を発表したので送付します。

予報第12号

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	発生現況	発生予報	
		平年比	平年比	前年比
イチゴ	ハダニ類	多	多	やや多
	アザミウマ類	-	-	やや多
ナス	ミナミキイロアザミウマ	やや多	やや多	やや多
茶	カンザワハダニ	多	多	多

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は平年より高いでしょう。降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

週別の気温は、1～2週目は高く、3～4週目は平年並でしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

(福岡管区气象台 平成19年2月23日発表抜粋)

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（ + ）は発生を助長する要因、（ - ）は発生を抑制する要因、（ ± ）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【野菜】

1 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

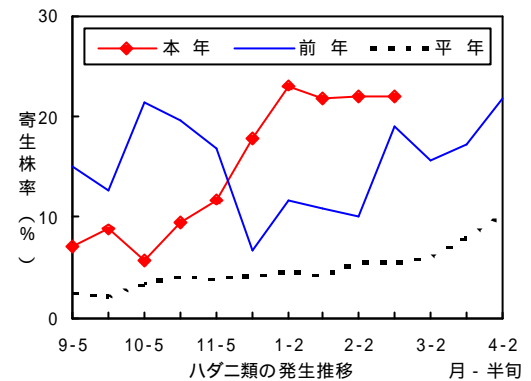
発生量：平年より多く、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査結果（ + ）

寄生株率 21.9%（平年 5.5%、前年19.1%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高い。（ + ）



(3) 防除上の注意

ア 依然として発生が多い状態が続いている。気温の上昇とともに増殖がはやくなるので、早い時期に防除を徹底し密度の低下を図る。

イ 多発ほ場では、薬剤を7～10日間隔で連続して2～3回散布する。その際、葉裏に薬剤がよくかかるように丁寧に散布する。なお、摘葉後に行くと効果的である。

ウ 薬剤感受性の低下がみられる地域においては、平成19年度野菜病害虫・雑草防除の手引きの「イチゴにおけるナミハダニの薬剤感受性検定結果（40～41項）」を参照し、薬剤を選定する。なお、効果が高い薬剤でも、多発生時には密度を抑えることが困難となるので、早めに防除を行う。

エ 除草や葉かき後の残渣はハダニ類が寄生している恐れがあるので、ほ場内には放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。

2 イチゴのアザミウマ類

(1) 予報の内容

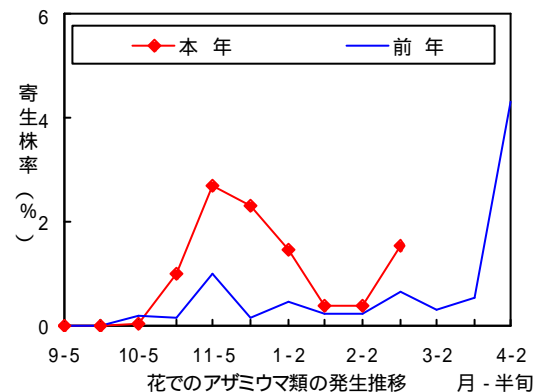
発生量：前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査結果（ + ）

寄生株率 1.5%（前年 0.6%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高い。（ + ）



(3) 防除上の注意

ア 花への寄生が見られたら早急に防除を行う。なお、花に軽く息を吹きかけると成虫が飛び出し、発生が確認できる。

イ 気温の上昇とともに増殖がはやくなるため、早めに薬剤防除を実施する。

ウ 薬剤によっては、天敵への影響があるので、薬剤の選定には注意する。

3 ナスのミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

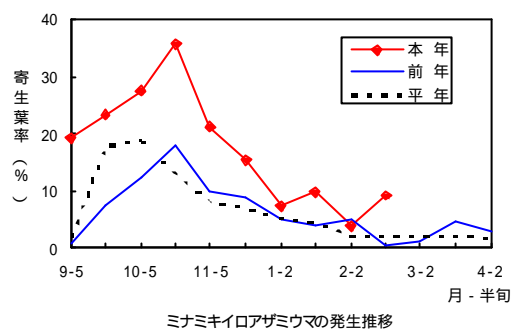
(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査結果(+)

寄生葉率 9.2%(平年2.2%、前年0.5%)

被害果率 1.0%(平年0.2%、前年0.3%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高い。(+)



(3) 防除上の注意

ア 気温の上昇とともに増殖がはやくなるため、早めに薬剤防除を実施する。

イ マルハナバチを放飼する場合は、薬剤によっては影響があるので薬剤の選定に注意する。

ウ 防除対策については、平成18年11月13日付「速報第6号」を参照のこと。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生現況	発生予報		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
イチゴ 灰色かび病	並	並	並	発病後は防除が困難になるので、 予防的に防除を行う。 二重カーテンをしているところは 加湿になりやすいので換気を図る。
うどんこ病	並	並	並	
アブラムシ類	やや少	並	並	
ナス うどんこ病	並	並	並	発病後は防除が困難になるので、 予防的に防除を行う。
灰色かび病	並	並	並	
すすかび病	少	やや少	やや少	
トマト 灰色かび病	並	並	並	発病後は防除が困難になるので、 予防的に防除を行う。
葉かび病	やや少	やや少	やや少	
キュウリ べと病	少	やや少	並	発病後は防除が困難になるので、 予防的に防除を行う。
うどんこ病	やや多	並	並	
灰色かび病	少	やや少	やや少	
野菜共通 コナジラミ類	並	並	並	

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年より早い

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査結果(+)

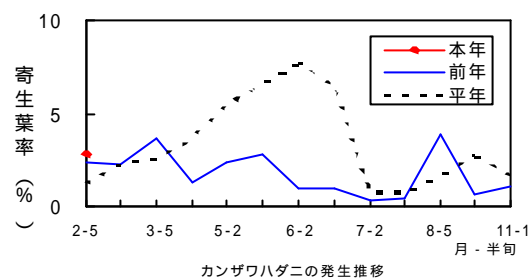
表層における寄生葉率 2.8% (平年 1.2%、前年 2.3%)

表層の50葉当たり寄生虫数 2.5頭 (平年 1.4頭、前年 2.2頭)

表層の発生ほ場率 46.2% (平年 24.7%、前年 58.3%)

越冬後第1世代孵化幼虫の発生ほ場率 15.3% (平年 10.7%、前年 8.3%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高い。(+))



2月27日付けで注意報第9号を発表している。

越冬成虫の産卵や幼虫の孵化が平年より早いので、春期基本防除を繰上げ産卵数増加前の3月上旬を目処に行う。また、発生には圃地間差が認められるので圃地を確認し実施する。

農薬の適正使用、飛散防止の徹底を！

全ての農薬の残留基準が作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）の販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう、これまで以上に注意を払う必要があります。

1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数の使用基準を遵守する。

動力噴霧器、薬液タンクなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 生産履歴の記帳

農薬使用の際は、作物、ほ場毎、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を記帳する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp